

玉繫ぎの遊び方

麴町幼稚園長 土川五郎

一 玉繫ぎとは何か

玉繫ぎは申す迄もなく、形をフレーベルの恩物の第二即ち三體に取つて、各五分の直径を有しそれを六種に着色してある。球が六、立方體が六圓筒が六で、形は三つに分れ、之れが六色になつて十八種から成立つて居る。而して一方から他方に抜ける穴が一つあけてある。

之れを繫ぐために紐がある、靴の丸紐の一端の金を取りて結び目を作り、他方に其儘細く巻いた金屬が着いて、穴を通すに便利にしてある。

之れを使用するには、一人の幼兒に對して玉の數を、凡そ二十四としてある。これは三と六との倍數であること、紐の長さ（幼兒として使ふに都合よき長さ）との關係からである。而して紐は一

人に對し、初めは一本であるが、間もなく二本三本で繫がしめる。一般にはこの玉繫ぎで、幼兒を遊ばせる場合には、一本の紐より出來得ない様に考へられて居る様であるが、二本以上になつてから初めて此遊びがその本質を發揮するのである。一本の紐でのみ遊ばしめるのは寶の山に入つて寶を取らぬのである。

二 第一の遊び方

初めは形も色も擇ばずに、十八種とも混じて、幾つかの籠に入れ、幼兒は其圍りに一本の紐を持ちて取巻き、自由に繫がしめる。繫ぎ方は幼兒一人々々が違つて居るが、幼兒自身としては、自分で自ら繫ぎたるものを、或は手にさげて見たり、机の上に圓形に、楕圓形に、又は方形にして見た

りして、其出來ばへを喜び、之をぶらんこととして振り、頭にかけて坊さんとなり、一方の肩より他の腋下にかけて、軍人となり、部屋を出で、鐵砲を肩に兵隊遊びをする。

第二の遊ぶ方

二つの形、一つの色。二つの形、二つの色。一つの形、二つの色。一つの形、三つの色。三つの形、一つの色。三つの形、二つの色。三つの形、三つの色。かくの如く取り交せたるものを用ゐて自由に繋がしめる。

以上の二つの遊び方に於て、最も注意すべきは、保姆が少しも干渉せぬ事である。彼等は自由に繋ぐ間に、彼等の持てる潜在力は表はれる。色により、又は形によつて、リズム的に繋がる。たとへ二三の誤られたる幼児があつても、數回の内には、正しき方に自然と導かるものである。此の繋ぐ彼等を用意して見る事が、保姆の第一の要件である。何となれば此の注視して居る間に、大なる一

つの暗示を保姆が受けるのである。

第三の遊び方

三體によりての位置、又は自分の身體局部の名、室の主要なる部分と位置等について遊ばしむ、これは其部分の名を云はしむることにより、言葉の練習をなし、其名稱及其位置を知らしめ、三體を以て、迅速に且つ正確なる習慣を付くる事の出來る極めて面白き遊びを爲さしめる。

第四の遊び方

位置と距離の關係配合等を知らしめる。

以上の第三、第四の遊び方は、立方體數個を與へて、手前に一つ、向ふに一つ、右に一つ、左に一つ、机の上に置かしめ、又は同じ距離を取らしめて、一列にならべ、又は二列にして、兵隊遊びをなさしめ、三體を混じて二つ置きに、間をあけてならべたり、又異なる色によりて、其間を、明らかに區別せしめなどして、遊ばしめる間に、其配合比較を知らしめる、又一つの立方を以て、

汝の手の上に、又は下に、汝の右の肩に、又は左の肩に等、自身の身體の一部に早く置かしむ、これ等は最も初めの指導である。

此の基礎を興へて、第一、第二の遊びに立戻るときは、又以前と趣きを異にせる結果を生じ、興味も一段と加はる。

第五の遊び方

これから二本の紐を使ふのである。先づ二本の紐を興へて自分の左右に置かしめる。次に立方體六個を興へて、縦に一行にして而して穴は左右に向く様に置く。右の紐を取り、左手にて一番先きにある立方體をおさへて、右より左へ通し、次に左の紐を以て、同じ穴を左より右に通す。次に第二番目の立方體の穴に、左右より前の如く通す。

これが出來得た後に、更に立方體十個を興へて、縦に二列にし、穴は左右に向けて、右の手に、右の紐を取り、左手にて一番先きの二個をおさへ、二個を同時に通し、更に左の手に左の紐を取り、

右手にておさへて前に通したる穴へ、左より右へ通す。かくして順次に通し終る。

以上の指導を終らば、更に遊び方第一第二に立戻りて、自由に繋がりしめる時は、幼兒の繋ぎ方は大なる變化を來し、種々なる創作的の遊び方が現出される。

次に又三個づつ縦に並べて、之れを通す時は、幼兒は四個五個を通すことを自ら爲すに至る。かくて、球と立方と圓筒とを組合せて、二つ一つ二つ一つと繋ぎ、一つ二つ三つ一つ二つ三つと繋ぎて、吾人の及ばざる感を惹起す程のものを繋ぐ。

幼兒は何故に玉繋ぎを喜ぶか

玉繋ぎは幼兒の最も喜ぶ遊びの一つで、これだ遊ぶ時は其室に保姆の必要を認めぬ程に没頭して遊ぶのである。

一 幼兒發達時期に適す

諸方から發掘さるゝ古代遺物のうちに、小さき

立方長方球等の玉の發見さるゝ事は、東西同じ事である。しかも其物には、小さき穴があけてあつて、古代の人が、之れに何かを通して、頸飾り、腕飾りに使つた事は明かである。幼兒時代は恰も此の時代に相應して居る所から見ると、此の玉繫ぎが其發達時期に適することが分る。

二 創作的要素が多く含まれて居る

自由であつて束縛のないこと、活動其ものゝ愉快なる満足とが遊びの大切な要件である。幼兒の考へが束縛される所があれば、幼兒は喜ばない、却て之れを避け様とする。此の玉繫ぎは、一本の紐を以て、變化させても四百種程ある、更に二本以上の紐を以てすれば、優に千以上の種類が出来る。幼兒は唯僅かに基本としての指導を受くれれば、其餘は、廣きく野原に放たれた様なもので、幼兒自身の工風創作の領域は實に廣く、自由の天地に活動する思ひをなし、己が思ふまゝに繋ぐ事が出来る。而して其繋ぐ間及び其繋ぎたる結果は愉

快なる満足を持ち得るのである。此の點から幼兒は玉繫ぎを喜ばざるを得ないのである。

玉繫ぎの教育上の價值

- (一) 幼兒が喜んで遊ぶことの第一の主要なる教育的價值が存する。
- (二) 三體は宇宙の凡てのものゝ形態を具有して居り、且つ點と線と面とを遊びの間に會得する事と比較鈎合配合等を知得する事により、工藝美術創見等の基礎となる。
- (三) 創作的要素が含まれて居り、幼兒が生れながら持つて居る創作的本能を誘發し、更に以上の工風創作し得る所に、最も主要なる價值を認む。
- (四) 玉繫ぎは、一つ二つ三つ二つ一つと繋ぐ事が、直ちにリズムであつて、これによりて、拍手も、足拍子も、歌も、動作も、生れて来る。此のリズムは、第二價值に於て述べた比較や鈎合配合と相まちて、藝術や裝飾や圖畫其他人生々活上

の實際に對し基礎を作るものである。

(五) 六色は幼兒の繋ぎたるものにより、室内を裝飾し、プリズムを以て光線を分解し、これと對照し、幼兒自ら其基礎を知り、原色と補色とを知り、自在に之れを配合して圖畫と云はず、自身の衣服其他の基礎となり、又自然を了解するを得る。

以上は極めて簡單に述べたるもの、而して遊び方の指導についても、之れを實際になす時は、極めて簡單のものであつて、實際に遊ぶ方が即自由生活の方が多いことを豫め考へてかゝらねばならぬ。唯之れが基礎となるべき指導をなす時は、摸倣でなく、命令と相談とによりて幼兒の考へを通じて爲さしむる即ち聽官により彼等の頭腦を通じて爲さしむる點に重きを置きたい。目から形を入れて、單に摸倣せしむる事は、幼兒を活かす方法でない。従つて此摸倣にのみ依らしめる時は、自由なる創作的の遊び方に至つて、大なる齟齬を來すものである事を忘れてはならぬ。

○ 會 告

會費御拂込みの節に一圓二圓といふやうに端數のない額で御拂込みになる向きが御座います。右は會計部の方で帳簿整理上少々都合がわるいさうで御座います。本誌の定價は表紙の三に明記して御座いますからあの規定の額に過不足なく御拂込みが願ひたいと存じます。例へば六冊前金九十錢に對して一圓御拂込みになると餘分の十錢を御返送するか前金切の場合にその次ぎの御拂込みに加へて計算するかしなければなりません。が孰れにしても少々手數で御座いますから、なるべく卷末の定價表通りの額を御拂込み下さるやうに願ひ致します。